

C-16 人体外形の非対称性(第5報) — 中学生について —
鹿児島県立短大 ○茅野艶子 森田寛子

目的 第4報では、小学生(9才~12才)の体型を観察し、肩部の形態に左右差を示す個体が多いことを述べた。今回は、中学生の体型について考察するために同様な計測を行い、それぞれの外形にあらわれた左右差の傾向を、年令別・性別に比較検討した。

方法 被験者は、鹿児島市立I中学校在学の健康な生徒13才~15才の3年令、男女合計300名について、昭和49年5月、シルエッターII型による写真撮影を行った。計測方法、被験者の服装、写真撮影のしかた並びに研究項目は前報と同じである。

結果 1) 肩部の形態は、左右差を示す個体が多く、今回計測の300名中、肩線傾斜角度の計測値は、右>左のものが64.0%を占める。左右平均値間の比較では、女子13才を除いて男女各年令ともに有意差を示す(男子13才・女子14才・15才は5%水準、男子14才・15才は1%水準)。2) 脇胴囲点高では、右>左のものが300名中、50.3%を占める。平均値の大きさは、男子の各年令および女子の13才では、右の値がやや優れる。3) 肩峰点・脇胴囲点間距離では、300名中、59.0%のものが右<左を占める。平均値の大きさは、男女各年令ともに、左の値がやや優れる。